第４章　重点課題への取組

鎌倉市次世代育成支援に関するニーズ調査や次世代育成かまくら市民会議、次世代育成支援対策協議会、団体別懇談会等において寄せられた意見・要望を踏まえ、次の４点を緊急的・重点的な課題として位置付け、積極的な取組を行います。

これらの課題についての考え方や方向性を示し、その解決に向けて個別に事業を進めるだけでなく、横断的対応を図ることにより、さらなる効果をあげることができるよう、積極的に取り組もうとするものです。

重点課題を解決するための方策としては、今回、主要課題ごとに整理したような、各課が個別に実施していく事業については、新たな視点から見直すなどにより効果的な推進を図ることはもとより、さらなる新たな取組について、今後も引き続き検討を重ね、平成 18 年度からの第３次総合計画基本計画・実施計画との整合を図るなど、積極的に事業を展開していきます。

緊急・重点課題：子どもの権利を守りその自立を支援します

重点課題１：子育ての経済的負担の軽減を図ります

重点課題２：鎌倉らしさを生かし子どもの健やかで豊かな成長を支援する取組を進めます

重点課題３：市民との協働による子どもと子育てを支える地域活動を推進します

緊急・重点課題：子どもの権利を守りその自立を支援します

「児童[※1]の権利に関する条約」で定められた、子どもにかかわる種々の権利を守るための施策が推進されていますが、現実には、いじめ、暴力、虐待[※2]など子どもの人権を侵害する行為が存在しています。

人権は、人間としての価値や尊厳を持って生きていく上で不可欠なものです。子どもが一人の人間として人権を擁護されるとともに、自分や他者の「権利」に気づく機会をつくることが重要で、子どもの権利条約の周知・啓発に努めるとともに、命の大切さや生きる喜びを伝えるための取組を推進します。

また、平成 16 年 11 月に児童福祉法[※3]が改正され、これまでは県の児童相談所に集中していた児童相談を、平成 17 年４月からは、まず市町村で受け止めることになりました。このため、児童相談窓口[※4]を明確にし体制を整備することは、鎌倉市にとって最優先の課題といえます。

併せて、「子ども 110 番の家」、子どもの安全・安心を守るためのマニュアルづくりなどの事業に取り組みます。関係各機関との円滑な連携を取りながらこうした事業を実施することにより、子どもを権利の主体としてとらえ、その自立を支援していきます。

※１　児童の権利に関する条約は、18 歳未満を「児童」と定義し、国際人権規約において定められている権利を児童にまで広げ、児童の人権の尊重及び確保の観点から必要となる詳細かつ具体的な事項を規定したものです。1989 年の第 44 回国連総会において採択され、2002 年に発効しました。日本は 1994 年に批准しました。

※２　児童虐待防止法の一部改正（平成 16 年 10 月施行）により、児童の目の前でドメスティック・バイオレンスが行われることも虐待とする定義の拡大、通告義務の拡大などが盛り込まれました。

※３　児童福祉法の一部改正（平成 17 年４月施行）により、市町村が児童相談の一義的な窓口となり、県と児童相談所の役割は深刻な事例への対応や市町村の後方支援となります。

※４　平成 17 年４月１日に「こどもと家庭の相談室」を福祉センター１階に開設します。（P15 参照）

《 市民や委員の皆さんからは、次のような意見が出ています。 》

＊０歳から４歳の子どもの親、とくに、生後４、５か月までの子どものいる親は、地域から孤立して、ストレスが溜りやすく、場合によっては、児童虐待につながる。

■虐待などに繋がる子育て不安を抱えている家庭、また障害児に対するケアの制度が不充分だと思う。

△子育て支援サービスを受けるのは子ども自身である。子どもの権利を保障する取組が必要。

（注）＊は、市民会議の意見　■は、ニーズ調査の自由記入　△は、団体別懇談会の意見

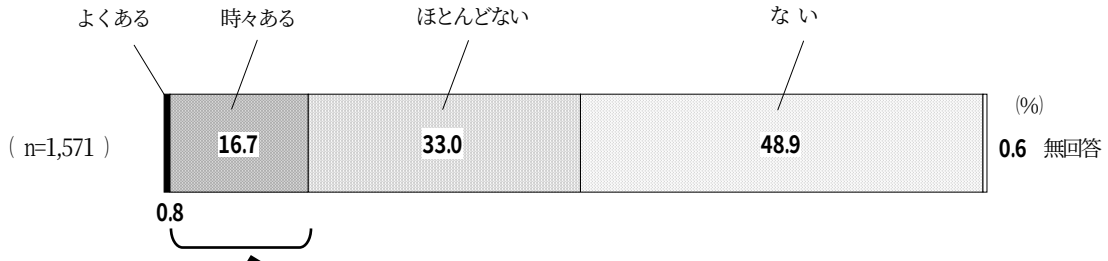
《 子育て支援センターなどに寄せられた相談 》

●子どもとのかかわりが難しくなって、つい、たたいたりどなってしまう。
●自分のストレスを子どもにぶつけてしまう。
●年子の子育てで疲れてしまい自分を抑えられず、子どもの前で叫んだり、子どもの顔をふとんに押し付けたりしてしまう。
●思い通りに育たなくて、かっとして手を上げてしまう。

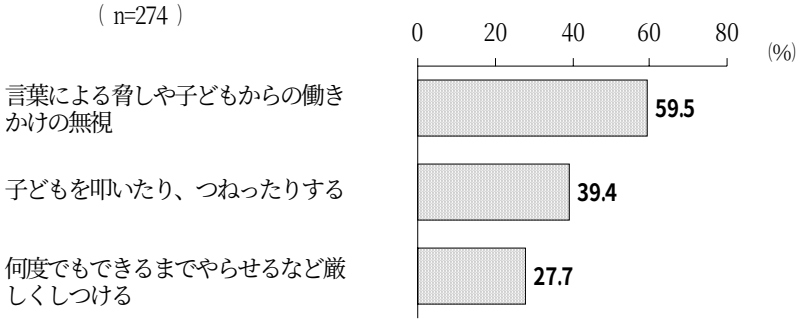
《 子どもの虐待について 》

自分が子どもを虐待していると思うことが「よくある」という人は0.8%で、これに「時々ある」（16.7%）を合わせた＜経験あり＞は17.5%を占めています。

さらに、その＜経験あり＞という人にそう思うのはどのような時かきいたところ、「言葉による脅しや子どもからの働きかけの無視」が59.5%と最も多く、以下「子どもを叩いたり、つねったりする」（39.4%）、「何度でもできるまでやらせるなど厳しくしつける」（27.7%）の順で続いています。



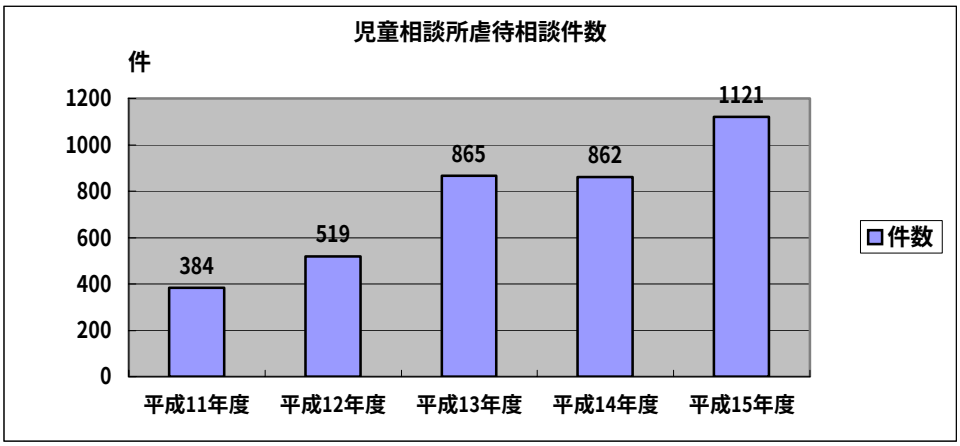
《 虐待の内容 》（上位３位）



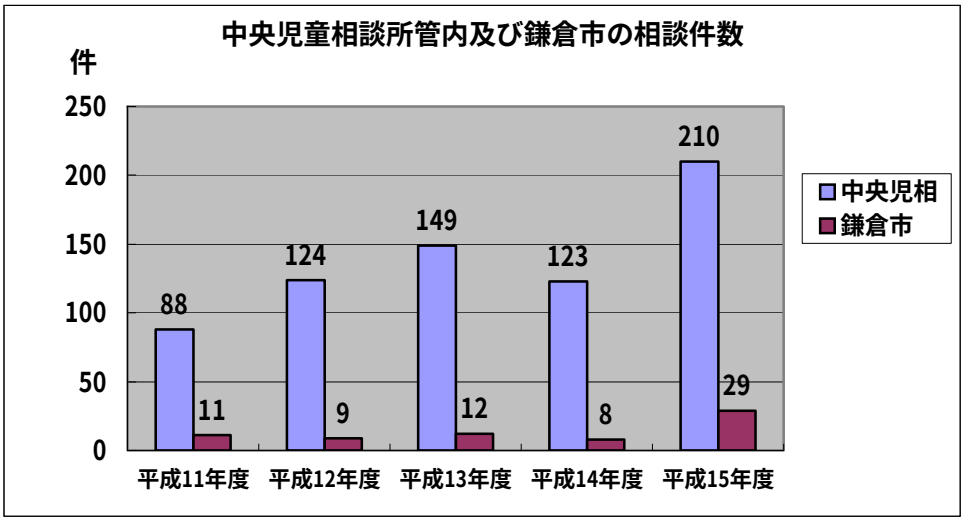
（資料：ニーズ調査「就学前児童調査」）

《　神奈川県児童相談所虐待相談件数　》

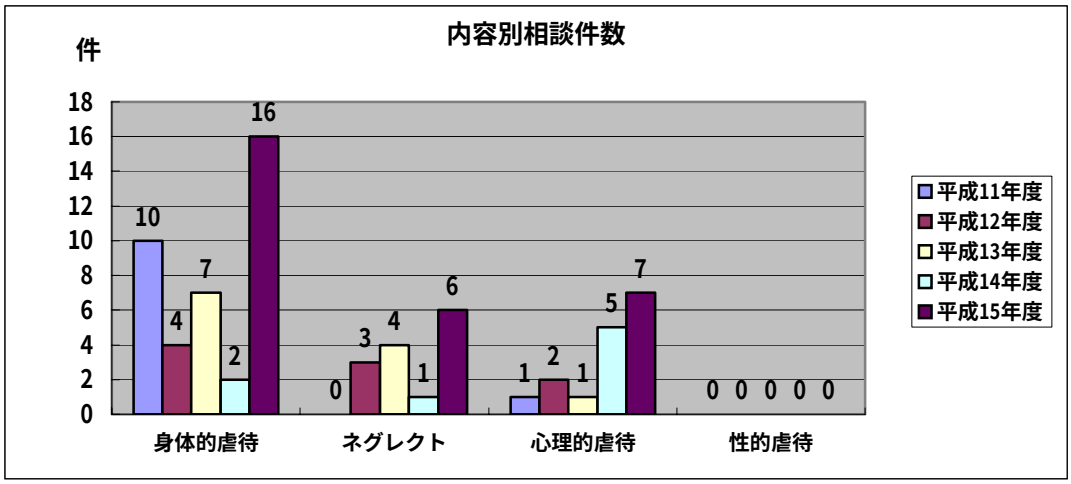
1　県年次推移



2　県中央児童相談所管内及び鎌倉市の相談件数

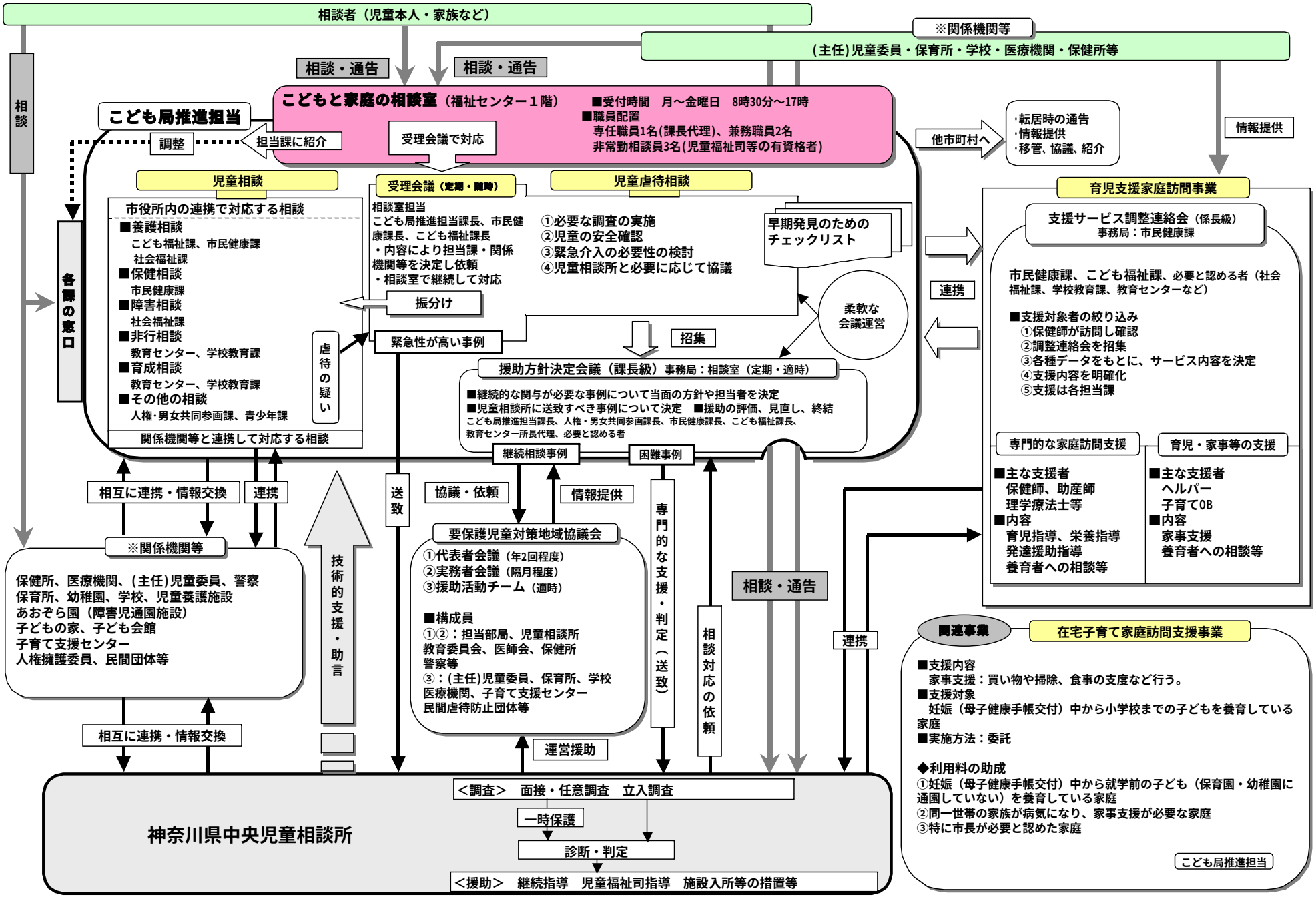


3　鎌倉市内容別相談件数



※ネグレクト（保護の怠慢・拒否）：病気やけがをしても適切な処置を施さない、乳幼児を家に置いたまま度々外出する、極端に不潔な環境で生活させるなど、健康状態や安全をそこなう行為。

（図解）鎌倉市児童家庭相談・援助の体制



重点課題１：子育ての経済的負担の軽減を図ります

厚生労働省が行った少子化に関する意識調査研究結果や鎌倉市次世代育成支援に関するニーズ調査結果によると、子育て中の世帯の多くが、理想の子どもの数よりも、現実には子どもの数が少ないという結果が出ていますが、その理由を見ると、子育てや教育にお金がかかるからという回答が突出して多く、子育ての経済的負担の重さが読み取れます。

子育ての経済的負担を社会的に支援するため、児童手当等の増額をはじめ、税制度や社会保障制度の見直しなどを、国等に働きかけていきます。

また、鎌倉市としても、小児医療費助成や私立幼稚園等就園奨励費補助金などの充実を図ります。

《 市民や委員の皆さんからは、次のような意見が出ています。 》

１　子育て・教育費の軽減

＊少子化が止まらない要因として、子育て・教育の経済的負担の大きさがある。

＊国や自治体レベルで、子育て家庭のために思い切った経済的支援をする。

◎子育てに費用がかかることも原因であるため、親の責任だけではなく国や行政が支援して費用の負担を減少させていただきたい。特に教育費がかかるため、学校教育を充実させて私立に行かせなくても大学まで出すことができるようなことを策定したいと思う。

■子どもを教育するのにお金がかかりすぎる。公立の学校の先生の質を高め、貧富の差がなく（塾に行けない子もいる）一定の学力を学校でもっと付けるべきだと思う。今の公立はあまりに学力が付かないのが心配。

■年金問題、健保問題など、子どもを多く育てることには多大な費用負担があり、今後も増大していくものと憂慮される。従って、現状ではそう簡単に子どもを産む気にはならないと思う。女性の社会進出と結婚･子育てのバランスをどのように図っていくのかを十分に議論し、社会システムとして成算されることを望みたい。

■保育所などの費用が高すぎると思うので、安くしてほしい。現在の補助制度を見直して、検討してほしい。社会に対し、親の収入が安定しないと、どうにもならないことから、労働者をいとも簡単にリストラできないようにする法律が必要。労働基準法の改善。

■教育にお金がかかりすぎる→私立の学校や塾に行かなくてもよいように、公立の教育を充実させる。教育費は社会が負担すべき（０にする）。学区制の廃止→各学校に特色を持たせ、教育クーポンなどを取り入れ、教育を受ける者が教育の内容を選べるようにしてほしい。

■公立の学校の教育内容が、私立に比べレベルがどの程度なのか不安を感じる。収入が少ないので、教育費、老後の資金づくりなどに回すお金がないのに、保育料や医療費、年金などの金額が高いように思う。

△保育園の経営が厳しいので、補助金を引き上げてほしい。また、保護者が支払う保育料を引き下げてほしい。

（注）＊は、市民会議の意見　　◎は、対策協議会の意見

■は、ニーズ調査の自由記入　△は、団体別懇談会の意見

《 市民や委員の皆さんからは、次のような意見が出ています。 》

２　医療費の軽減

＊子どもが病院に通うのは４歳位までが多いので、その年齢までは、所得制限を撤廃するとよい。

＊医療費については、所得制限をはずしてもいいと思う。

＊子どもが小児喘息だったが、医療費控除対象年齢を上げ、所得制限を緩和してほしい。

■０歳児に関しては、所得の制限なく医療費が無料になるが、１歳を過ぎると所得制限があり、我が家ではこの制度が受けられなくなる。３歳位までは熱を出すことが多かったりして、医療機関にかかることが多く、また、子どもが２人、３人といる場合、とても費用がかかる。せめて３歳児までは所得の制限なく、医療費があまりかからなくて済むような制度を考えていただきたいと思う。インフルエンザの予防接種も低料金で受けられるようにお願いしたい。

■鎌倉市では、医療費の補助の年数が短い。

■金銭面の補助は不充分。医療費ももっと高年齢まで負担してほしい。

■東京の世田谷から鎌倉に移ってきたが、予防接種のお知らせなど、世田谷の方がずっと親切だった。医療費も世帯の収入にかかわらず、６歳まで東京都は無料。鎌倉は子どもの人口が少ないから、もっとサービスを充実させるべきでは。

■現在鎌倉の幼児の医療費は有料だが、東京などでは６歳児まで無料と聞いている。鎌倉も６歳までの医療費の免除をしてほしい。

■この数年で、児童手当や医療費負担の面で、収入の限度額が見直され、我が家はその恩恵を受けることができ、金銭的な面では子どもを育てやすくなったと思う。ただ、これから先、教育面での出費は更に高額になるであろうし、そういったときにこそ補助があってほしいと思う。

■少子化というなら、妊婦通院費や出産費をもっと安くするべきだと思う。鎌倉市は子どもが少ないせいか、産院がどんどん減っていってしまって困る。

■医療費など、小学生前の子どもは無料にしていただきたい。

■医療の助成金の年齢を小学６年生位にしてほしい。

（注）＊は、市民会議の意見

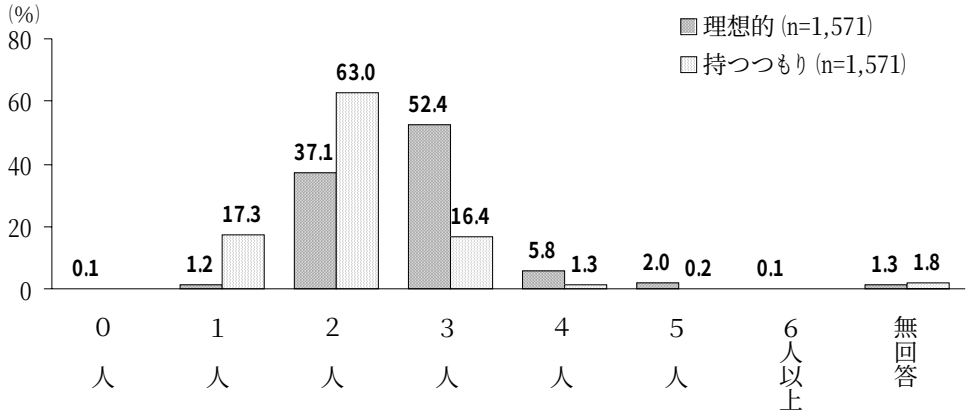
■は、ニーズ調査の自由記入

《 理想と持つつもりの子どもの人数 》

理想的な子どもの数は、就学前児童調査、就学児童調査とも「３人」が最も多く、これに「２人」が次いでいます。

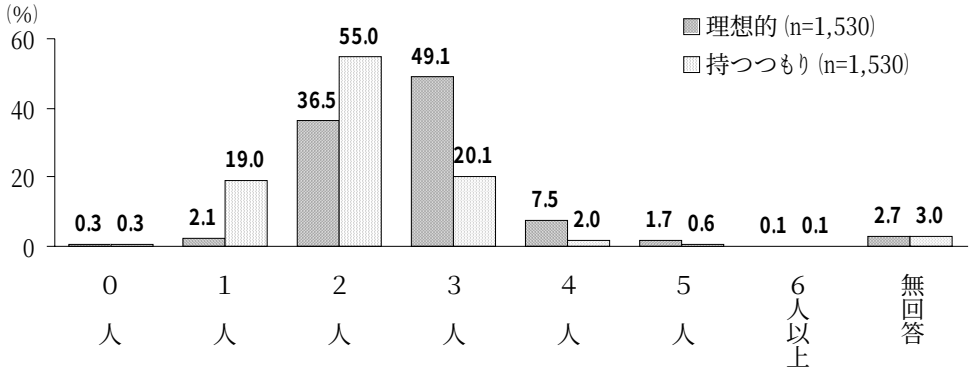
一方、持つつもりの子どもの人数としては、「２人」が就学前児童調査、就学児童調査とも最も多くなっています。

〈 就学前児童 〉



（資料：「就学前児童調査」）

〈 就学児童 〉

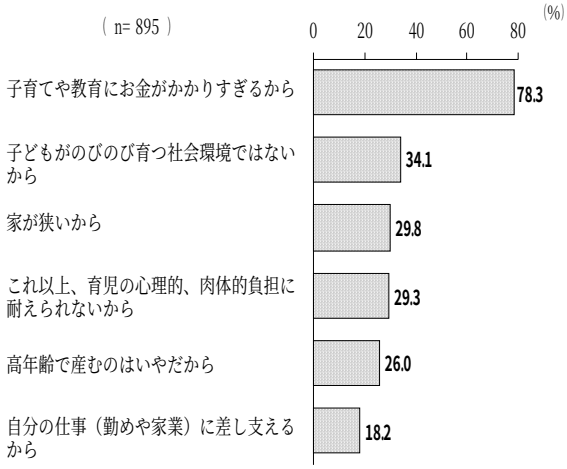


（資料：ニーズ調査「就学前児童調査」「就学児童調査」）

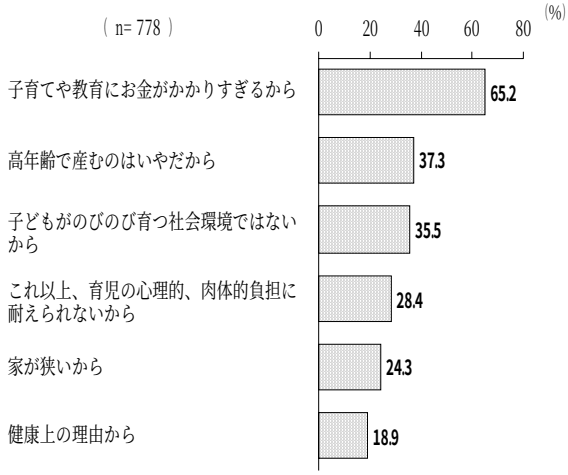
《 子どもが理想より少ない理由 》（上位６位）

子どもが理想より少ない理由は、就学前児童調査、就学児童調査とも、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が圧倒的に多くなっています。

〈 就学前児童 〉



〈 就学児童 〉



（資料：ニーズ調査「就学前児童調査」「就学児童調査」）

重点課題２：鎌倉らしさを生かし子どもの健やかで豊かな成長を支援する取組を進めます

宅地化などに伴い、地域の遊び場や空き地が減少してきています。

子どもたちは学校から帰っての過ごし方として、「コンピュータ・ゲーム」「テレビ・ビデオ」「雑誌・マンガ」「習い事」の割合が高く、子どもたちが外に出て自然とふれあいながら遊ぶ機会が少なくなっています。

鎌倉市は、他市に比べ、海や山、みどり、自然、歴史、文化などの資源に恵まれています。こうした鎌倉らしさを生かし、自然の地形を活用した冒険遊び場の開設をはじめ、自然体験の機会等の提供に努めるほか、寺社等の協力を得て、身近な地域で、子どもたちが安全に安心して過ごせる場の確保と機会の提供を進めます。

また、歴史や文化に触れる機会を通して豊かな感性を培うとともに、スポーツ活動を通して健康づくり、体力づくりを進めるなど、広く青少年までも含め子どもたちの豊かな成長を支援していきます。

《　かまくらっ子の意識と実態調査研究から「遊ぶ場所」について　》

（資料：教育センター「平成 15 年度調査」）

●幼児について

男児では「自分の家」「公園」「友達の家」の順で、女児では「自分の家」「友達の家」「公園」の順で割合が高い。

●小３・小６男女について

各学年男女とも「自分の家」「友達の家」「公園」の順で割合が高い。

平成４年の調査と比較すると「道」「空き地」「公園」を遊ぶ場所とする割合が減っている。自由に遊べる空き地が減り、道が安全でなくなったことによるものと考えられる。

《 市民や委員の皆さんからは、次のような意見が出ています。 》

１　子どもを遊ばせる場の確保

＊鎌倉市には自然は沢山あるが、安心して子どもを遊ばせることのできる公園が少ない。
＊雨の日にも、安心して子どもを遊ばせることのできる公園を作る。
＊市内の公園の遊具が鉄でできているので、安全面で不安である。
＊プラスチック製の遊具にするなど、公園の設備をより安全なものにする。
＊子どもたちが伸び伸びと、安全に遊ばせられる広い公園、遊び場をつくる。
■市内には、子どもを遊ばせる場所、安心して通れる道が少ないと、いつも思っている。
■小さな子どもの遊べる公園が近くにあればよいと思う。
■鎌倉地域の駅周辺に遊べる公園がなく、とても不便。
■鎌倉市は公園が少なく、以前、近所（大町地区）の公園（現在ほとんど何もないため）に滑り台とブランコを設置してと手紙を出し、前向きにという返事が返ってきたのに、現在も変わっていない。是非、設置してほしい。
■子どもが少ない地域のせいか、人が集まる公園が少なく、我が家の子も幼稚園（２年保育）に行くまで、友達がいない。土地柄のせいもあるかと思うが、近所の方ともっとコミュニケーションがとれるようなまちづくりができるとよいと思う。
■鎌倉市内（特に旧市内）に遊ばせる公園がないこと。車で出た際に、途中で見つけた公園で遊ばせることがある。
■子どもを安心して遊ばせられる公園がほしい（旧市内）。神社などでは観光客がいて遊ばせられない（特に休日は）。
■鎌倉には寺の境内があるが、児童公園がない。
■鎌倉市内には、近隣他市のような遊具の充実した、広く（駐車場もある）安全な公園がない。１つでもあれば車を利用してでも、母親たちは子どもを連れてそこに集まり、母親同士の交流も図れるようになると思う。
■遊具のある公園をふやしてほしい（滑り台、ブランコ、砂場など）。
■鎌倉市には、公園が少ない。アスレチックや子どもがたくさん遊べる遊具や場をつくってほしい。近所の子どもたちが毎日のように集まる場がない。
■遊具のある広い公園がほしい。
■子どもの遊具などのある公園が少ない。
◎自主性にしても規律にしても、最初から大人が言うものではなく、子どもが自由に遊べる環境をつくってやると自ずと自主性なり社会性なりが身に付くようになってくるだろうと思う。
△鎌倉には子どもがしっかり遊べる公園がない。海浜公園や笛田公園は遊具がない。公園は子どものためにあってよいと思う。
△中央公園は車がないと行けないにもかかわらず、駐車スペースが不十分。
△小学校区ごとに広場・公園があり、地域の人が世代間交流できると良い。

（注）＊は、市民会議の意見　　◎は、対策協議会の意見
■は、ニーズ調査の自由記入　　△は、団体別懇談会の意見

《 市民や委員の皆さんからは、次のような意見が出ています。 》

２　鎌倉らしさを生かした取組

■神社仏閣は文化財保護の観点に立ち過ぎではないか。子どもが遊ぶことすら許されていない。旧鎌倉には広い公園もなく、海・山・神社・寺が遊び場であったのではないか。本堂を開放するなどして、小さい頃より神社仏閣に対する歴史認識を育むのも、鎌倉で生まれ育った利点とはならないであろうか。

◎テレビゲームが好きだからずっとやっているのではなく、そういう環境しか与えられず一人遊びしか知らないから、そうなっているのではないかと思う。子どもは山や海に行って体を思い切り使って遊び、危険なことも含め色々なことをして友達同士で感謝しあうようなキャッチボールをしながら育っていく環境にある。身近なところの子育て広場等も十分機能した形で、子どもたちが集団の中で育っていける、色々な大人と触れ合えるということが大切だと思います。

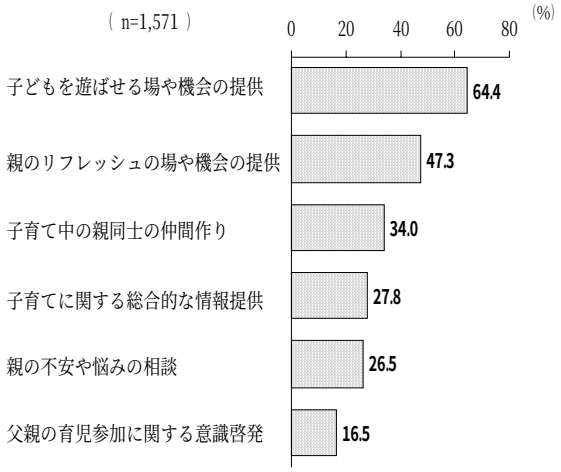
◎子どもたちが集団で遊びを通じて成長していく場の確保は必要だと思うし、鎌倉は海もあり、自然も残されているので鎌倉市らしさがその辺で出せるのではないかと思う。

△自然に子どもが冒険できるような公園整備を。

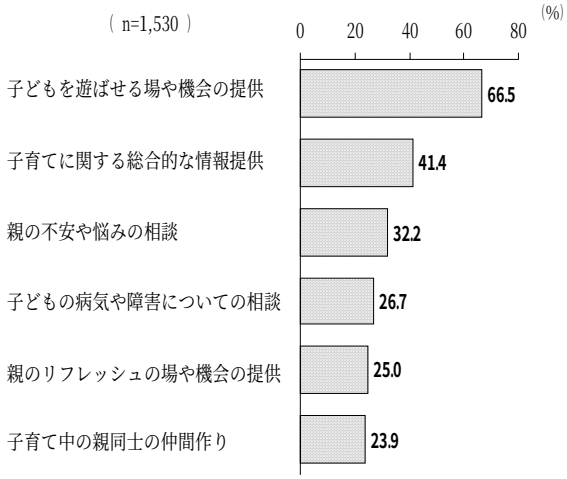
《 子育てを楽しく安心して行うために必要なサービス 》

楽しく子育てするのに必要なサービスとしては、「子どもを遊ばせる場や機会の提供」が就学前児童調査で 64.4%、就学児童調査で 66.5%といずれも最も多くなっています。

〈 就学前児童 〉



〈 就学児童 〉



（資料：ニーズ調査「就学前児童調査」「就学児童調査」）

重点課題３：市民との協働による子どもと子育てを支える地域活動を推進します

核家族化が進む中、子育て支援に地域社会の果たす役割が大きくなっています。

地域では既に、個人やグループで、様々な子育て支援活動や子どもたちの育成支援活動が進められています。こうした活動がさらに効果的に進むよう、活動同士の連携、行政や関係機関との連携が円滑に図られるよう支援します。（Ｐ２６参照）

また、子育て支援や地域活動の拠点となる施設の整備を進めるとともに、地域の人々による支え合いの輪を広げ、地域ぐるみでの子育て・親育ちを支援する取組や、特別な配慮を必要とする子どもたちを支える活動、多世代交流を通した体験活動、子どもの豊かな成長を支援する取組などを、協働で推進していきます。

《 市民や委員の皆さんからは、次のような意見が出ています。 》

１　交流の促進

＊地域の人々の間で、子どもを一時的に預かってくれるとよい。とくに、地域の間で様々な年齢の人間が互いに、交流し、支え合えるようにしてほしい。

＊幼稚園や小学校に入る前に、地域の中で、子育て中の親たちが交流できるような、機会や場所を増やしてほしい。

＊子ども会館はあるが、十分に機能していないので、そこに子育て支援センターの機能をもたせるなど、子育て中の親の交流の促進のために、様々な方法を考えることが必要である。

＊高齢者福祉センターのような場に、子育て中の母親たちが子どもを連れて来る等、いろいろな場で異世代間の交流をする必要がある。

＊子どもを育てることは、不自由な面もあるが、それに優る喜びもある。地域との関係についても、子どもをもつことで、コミュニケーションが広がる。

■核家族化が進み、世代を超えた交流の場が少なくなっている。その一方で、近所のお年寄りの方々と一度でも接する機会があると、子どものことをいつも温かく見守っていただけることは実感している。問題なのは、自然に交流する場所と機会が提供されないことであると思う。子どもが小さい頃から社会的に弱者である高齢者や障害者と接する機会が多ければ、子どもにも自然と思いやりの心が育つと思うし、親としてもご近所の方々と顔見知りになれると、学校の行き帰りも安心である。

■20～30年前までのような、地域が一丸となって子育てをするような、また、子育てに限らず、近所の付き合いという小さな単位においても、繋がりが希薄ではなかった社会に戻れるよう、行事や祭り、町内会などの企画を立ててほしい。子どもが何か困ったことがあっても、近くの家に駆け込めば支えてくれる手があったし、家同士の繋がり故に無関心ということもなく、今の異常な犯罪も防ぐことが容易だった。

（注）＊は、市民会議の意見　◎は、対策協議会の意見　■は、ニーズ調査の自由記入

《 市民や委員の皆さんからは、次のような意見が出ています。 》

２　地域の支援の充実

＊地域の人間関係が希薄になっていることが、子育てに限らず、地域福祉全般の問題である。

＊現在、鎌倉の子育て支援センターは鎌倉側と大船の方に２箇所あるが、地域によっては行きづらい場所である。

＊国の指針では「子育てについての親の第一義的な責任」を強調しているが、子育て中の親を追いつめるのではなく、地域と社会で支援していくことを前提としなければならない。

＊子どもはほしいが、経済的な理由に加えて、子育て環境の不備に関する情報が多く、その一方で、子育ての楽しさを教えてくれる人がいない。また、地域の支援も当てにできず、子どもを産むという決断ができない。

◎地域での子育てを皆様と一緒に考えたいと思う。視野を広げて地域での子育てを、子育てが終り時間に余裕のある人と一緒にできるようなしくみを作りたい。私は「冒険遊び場」という子どもが自由に遊べる場の活動を３年間してきたが、子どもの居場所としてこのような場所が必要であると活動を通じて考えている。地域のコミュニティの役割として「冒険遊び場」が役立っていると感じている。

◎親を押し上げるのではなく、親と同じ高さのところに社会、地域、行政、団体があって子育てをしていくという立場に立った方が良いのではないかと思う。

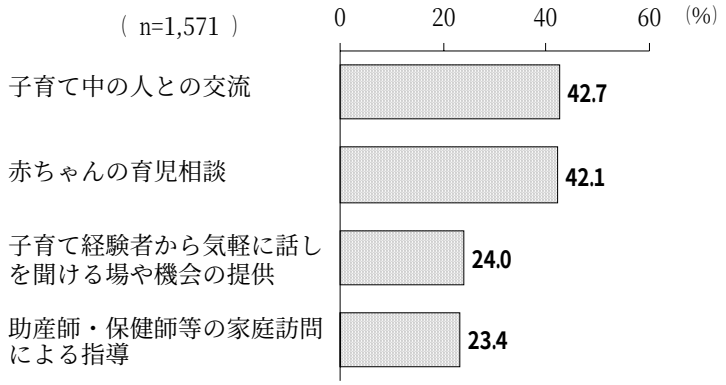
■この少子化の時代に、親だけが子どもを育てるというのは大きな意味で間違っていると思う。小学児童など登下校の安全性の確保など、地域が一体となって取り組むべきである。

■家庭だけではなく、地域・社会で子どもは育てられるものだと思う。

《 妊娠中や出産後に必要なサービス 》（上位４位）

妊娠中や出産後のサポートとして重要なサービスとしては「子育て中の人との交流」（42.7%）と「赤ちゃんの育児相談」（42.1%）が、いずれも４割を超えてとくに多くなっています。

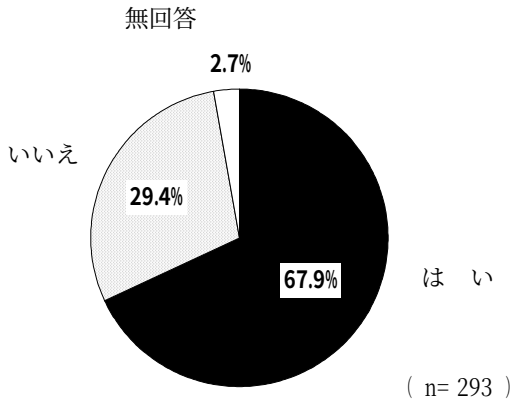
また、「子育て経験者から気軽に話しをきける場の提供」（24.0%）と「助産師・保健師の家庭訪問指導」（23.4%）を重視する人もかなり多くなっています。



（資料：ニーズ調査「就学前児童調査」）

《 地域の子育て支援についての協力 》

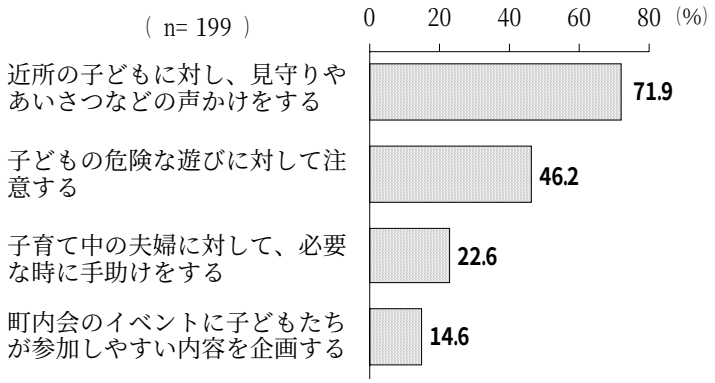
地域における子育て支援への協力意向について、「はい」は 67.9%と７割近くを占めています。



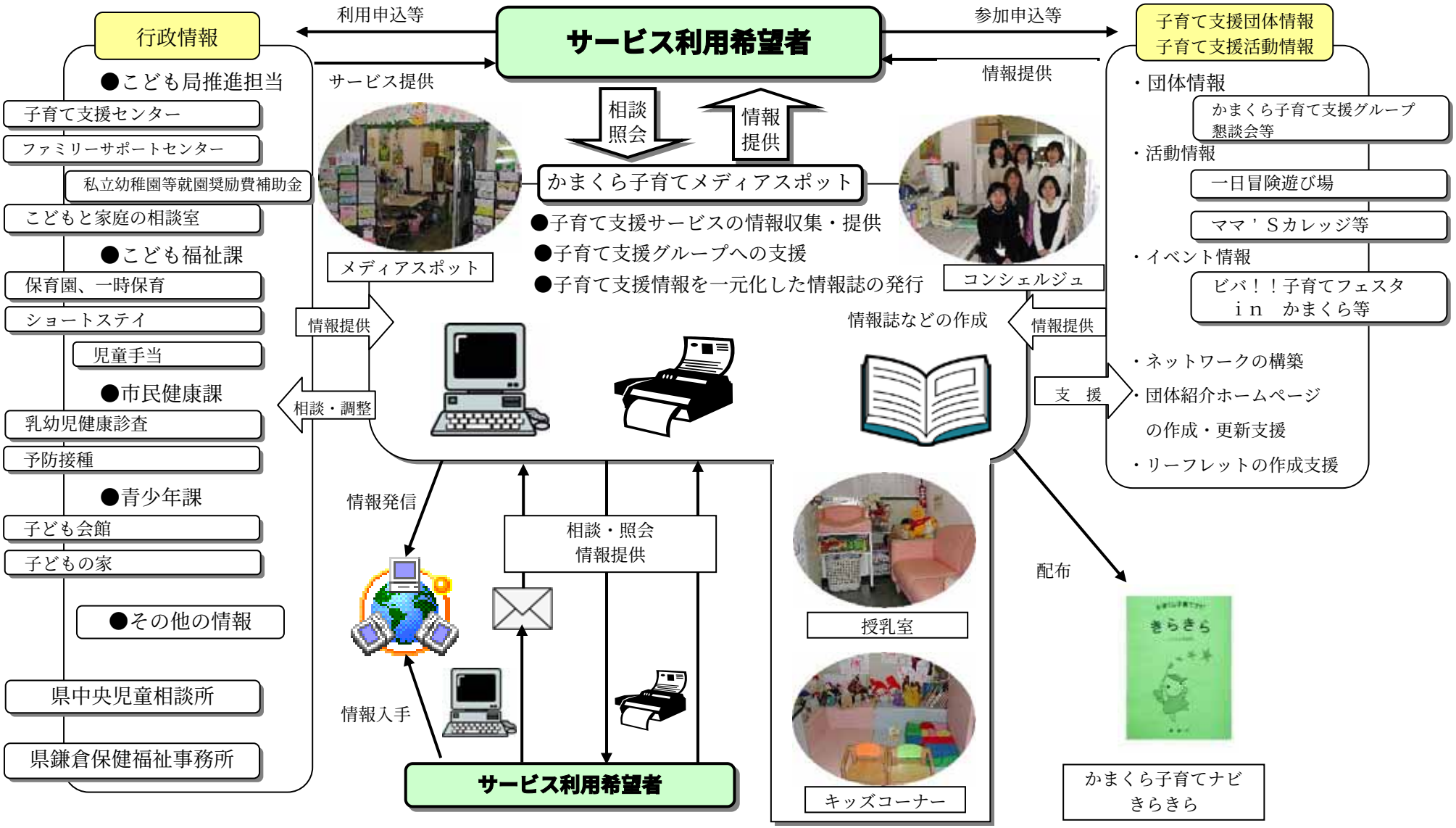
（資料：ニーズ調査「40 歳代・50 歳代市民調査」）

《 地域の子育て支援に協力できること 》（上位４位）

協力意向のある人（全体の 67.9%）に、その協力内容をきいたところ、「近所の子どもに対し、見守りやあいさつなどの声かけをする」が 71.9%で最も多く、これに「子どもの危険な遊びに対して注意する」（46.2%）、「子育て中の夫婦に対して、必要な時に手助けをする」（22.6%）が次いでいます。



（資料：ニーズ調査「40 歳代・50 歳代市民調査」）

かまくら子育てメディアスポット・子育て支援コンシェルジュ（平成 15 年 12 月 1 日開設）

市役所１階　月曜日～金曜日　8 時 30 分～17 時　電話：0467-23-3000（内線 2686）　FAX：0467-23-2125
e-mail：kmspot@nifty.com　ホームページ：homepage3.nifty.com/kmspot/
携　帯：homepage3.nifty.com/kmspot/keitai/